

## 平成22年度 学校経営計画書に対する中間報告書

石川県立高浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
1 学力の向上 (1)生徒の学習意欲を喚起し、自主的に学習活動に取り組む態度を養う。 (2)公開授業、互見授業、研究授業を推進し、授業改善に努める。	① 教材・授業内容の工夫を凝らした電子黒板による授業を通して、生徒の学習意欲を喚起し、自主的に学習活動に取り組む態度を養う。	電子黒板を利用した授業を年間を通して A：4回以上行った。 B：2～3回行った。 C：1回行った。 D：1回も行わなかった。	A：15.3% B：3.8% C：3.8% D：76.9%	7月現在のアンケート調査結果では、A+Bの合計が19.1%であるが、秋に実施される本校の互見授業週間(9月13日～9月24日)を機に、今後電子黒板を利用した授業が展開されるよう、さらに働きかけていきたい。
	② 互見授業、教科指導等研究会・研究協議会、研修講座等に参加し、公開授業を展開して授業改善に努める。	年間を通して、学習指導に関する研修・協議会等に参加した回数と互見授業・公開授業を行った回数の合計が A：4回以上であった。 B：2～3回であった。 C：1回行った。 D：1回も行わなかった。	A：16.0% B：20.0% C：40.0% D：24.0%	7月現在のアンケート調査結果では、A+Bの合計が36.0%であるが、夏期に行われる各教科教育課程研究会、9月に行われる本校の互見授業週間、秋に向けて行われる教科指導等研究会・研究協議会に、積極的に参加するよう教職員に一層働きかけていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・昨年度のアンケートの結果、後期で95.5%の教職員が「授業改善が十分進んだ」「授業改善がある程度進んだ」と答えている。それなのに、重点目標2進路の実現①の判定基準で、A+Bが60%未満であれば再検討となっている。これは矛盾ではないか。判定基準はもっと高くてもよいのではないか。授業改善と学力向上には密接な関係がある。学力の向上があつて、授業改善が進んだといえるのではないか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・授業改善がないままで生徒の学力が向上することはあまり望めない。授業改善することが学力向上に繋がっていくので、電子黒板を使った授業、メリハリをつけ観点を絞った授業展開など、今後とも授業改善に努力したい。			
2 進路の実現 (1)家庭とも連携し、個々の能力、適性等に応じた進路実現を目指す。 (2)早期の就職内定に向けて、積極的な指導に努める。	① 重点科目について補習授業を行い、進学希望者の実力向上を期すると共に各種模擬試験を行い、結果の分析を進学指導に活かす。	進学希望者において、補習授業や模擬試験により A：学力が、かなり向上した。 B：学力が、ある程度向上した。 C：学力が、あまり向上しなかった。 D：学力の向上がみられなかった。	A：11.1% B：51.9% C：33.3% D：3.7%	A+B(1、2年生を含む)は63%である。家庭学習を含め学習習慣の希薄さが、進学、就職を控えている3年生にとって大きな不安材料である。基礎学力、学習習慣を身につけて進学、就職先へ進ませる必要がある。
	② 担任、就職支援員と連携し生徒の職業人としての意識の確立や社会性を育成する。	学校の進路指導が満足のものであったと答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A	7月段階で、満足のものとの答えが91.7%であり、より積極的に取り組ませてこれを進路決定につなげたい。
学校関係者評価委員会の評価	・取り組みについてはこれでよい。ただ、判定基準をもっと高く設定してもよいのではないか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・昨年度よりもまして就職戦線は厳しい状況である。一般教養を身につけておかないと、希望する会社への就職はなかなか叶わないのが今年の特徴である。礼法指導に留まらず基本的学力の習得にも力をいれていきたい。 ・判定基準についてはその内容も含めて検討してみたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
3 基本的な生活習慣の確立、在り方・生き方教育 (1) 登校指導、巡回指導、授業規律の確立、携帯電話のマナー指導等に取り組む。 (2) 自尊感情を向上させ、自己肯定感を育み、「生きる力」を醸成する。	① 全教職員の共通理解を図り授業の取り組み方や携帯電話マナー指導など校外外巡視で徹底する。	昨年度より積極的に授業に取り組み、集中力が向上したと答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	「自己評価アンケート」で実施するため集計できず。	自己評価アンケート調査は1月26日に実施する予定である。授業の取り組み方が良くなっていると思われ集中力が身に付いている。
	② 定期予防接種の必要性を指導すると共に、自分の健康を自分で管理できる意識を高める。	定期予防接種の接種率が A：100%である。 B：90%～100%未満である。 C：80%～90%未満である。 D：80%未満である。	D	7月20日現在、3年生の予防接種率は50%であった。(未接種者のうち1名は接種対象外の生徒(麻疹・風疹予防接種をどちらも2回しているため)であるので、実質は51%ほど)夏休み前に健康診断結果一覧と一緒に、夏休み中に接種を促すお知らせを、保護者に届くよう担任を通じて保護者宛に送ったので、夏休みが明けてから再度接種状況を調べる必要がある。
	③ 「生徒の理解と対応」をテーマとする校内研修会を企画・実施し、教職員の資質向上に寄与する。	校内研修会が A：かなり役に立つ。 B：まあまあ役に立つ。 C：少ししか役に立たない。 D：役に立たない。	今後実施予定のため集計できず。	9月28日(火)に、校内研修会を実施する予定である。
	④ 面接・礼法指導を通じて、将来の社会生活に適應する生活態度の養成につとめる。	面接・礼法指導を受けた生徒において、自分の考えが話せるようになったと答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A  (1月末に最終集計)	外部講師による模擬面接で、多くの生徒は厳しい指摘を受けた。その後の担任や就職支援員による面接指導を重ねることにより、礼儀、言葉遣い、身だしなみ等にも自覚が見られるようになった。しかし、まだまだ指導は重ねていく必要がある。生徒側の受け取り方としては、自分の考えが話せるようになったと答える割合は、高い。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの家庭で身につけるべきことが身につけていない生徒が多いと感じている。家庭で教えるべきことは繰り返し教えていかなければならない。大変だとは思いますが、そのような生徒にも対応していただきたい。</li> <li>校内研修会でアンケートの中にはC、Dがあったときには、少数であってもその意見を生かすような研修会も企画していただきたい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段からクラス担任・教科担任が生徒の動向を観察し、学年・相談課・生徒指導とも連携して生徒の指導に当たっていききたい。</li> <li>研修会を通して教職員全員が発達障害について理解し、コミュニケーションや対人関係に困難さのある生徒を理解し支援していききたい。</li> </ul>			
4 体力向上と部活動の活性化 (1) 学校をあげて「体力アップ1校1プラン」を推進する。 (2) 部活動を通して人格陶冶と競技力向上を図る。	① 体力アップを推進し、生徒の体力向上を図る。	新体力テストの総合評価のABC群増加が A：15%以上である。 B：10%～15%未満である。 C：5%～10%未満である。 D：5%未満である。	11月実施予定の追跡テストの集計結果により判断する。(4月実施の結果は基準データとなる。)	4月実施の新体力テスト(基準データ)では、ABC群・・・83.0%、DE群・・・17%という結果であった。11月の追跡テストで目標を達成するには、D群に属する生徒(全体の17%・・・8人)に着目し意識づけをして、C群へ(2人以上)の移行意欲を高める必要があると考える。 ※昨年度4月の結果はABC群・・・76.3%
	② 部活動の全員加入を推進する。	部活動加入率が A：100%である。 B：95%以上100%未満である。 C：90%以上95%未満である。 D：90%未満である。	D	男子63%(運動部56%、文化部7%)、女子100%(運動部43%、文化部57%)全体としては85%の生徒が、部活動に加入していた。
	③ 部活動を活性化する。	部活動の参加が A：毎回参加している。 B：ほぼ毎回参加している。 C：ときどき参加している。 D：ほとんど参加していない。	A+B=70%	部活動加入者41人中40人がアンケートに回答 A「毎回参加している」が16名、B「ほぼ毎回参加している」12名、C「ときどき参加している」が5名、D「ほとんど参加していない」7名であった。結果的に70%の生徒がほぼ参加しているので良かったのではと思っています。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動に限らず学校の特色として何か1つ光るものがほしい。</li> <li>部活動が嫌で不登校になったという話も聞かすが、本校にはそういう生徒はいないので良い。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>レスリング部や射撃部が全国大会に出場できた。活気ある学校作りのためにも部活動の活性化は欠かせないものである。指導方法を工夫しながら外部コーチの招聘も検討に入れて、何よりも生徒が達成感や充実感を感じられるような部活動になることを志賀高校に求めるものである。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
5 地域、保護者との連携 (1) 地域から信頼される学校づくりを目指し、ボランティア活動等に取り組む。 (2) 保護者の各種行事への参加を促進し、保護者と教職員の連携を深める。	① ホームページや各課学年からの通信文書等を通して、本校の教育活動の内容を理解してもらう。	ホームページや学校からの通信によって本校の教育活動が理解できたと感じる割合が A：70%以上である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	B	アンケート結果では、「よく当てはまる」が13%、「やや当てはまる」が56%、「あまり当てはまらない」が27%、「まったく当てはまらない」が4%であった。今年度から志賀町ケーブルテレビと連携して志賀高校を取材してもらい、それを発信してもらっていることや、行事ごとにホームページの更新を行っていることも好評価に繋がっていると考える。今後も続けてA評価を目指したい。
	② 各種PTA活動や学校行事への保護者の参加を促進し、保護者と教職員の連携を深める。	PTA活動や学校行事等で一年間に3回以上来校した保護者が A：50%以上である。 B：40%～50%未満である。 C：30%～40%未満である。 D：30%未満である。	B	4月からこれまでに保護者が来校した割合は、5回以上が5%、3～4回が13%、1～2回が51%、0回が31%であった。7月でのアンケート結果としてはまずまずの成果だと考える。今後文化祭やマラソン大会、母親委員会主催の行事等に参加を願って、B以上の評価を獲得したい。
	③ ボランティア活動・地域との行事等、地域との交流に積極的に取り組む。	ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に A：積極的に参加している。 B：概ね参加している。 C：あまり参加していない。 D：全く参加していない。	A+B=50.1%	アンケート結果では、「積極的に取り組んでいる」が19%、「概ね参加している」が31%と半数以上の生徒が取り組んでいる。 また今年度、県のボランティア指定校を受け、ボランティア委員を中心に老人福祉施設でお年寄りとの交流を実施している。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動（全校による海岸清掃、野球部の定期的な活動、ボランティア委員による活動）を行っていることは結構なことである。</li> <li>・保育所でボランティア活動をしている高校生の姿を見ると、礼儀正しくマナーもよい。</li> <li>・ボランティア活動を通しての体験が実になると思う。体験活動を通して生徒の良いところを引き出してほしい。</li> <li>・PTA活動にいかにより多くの保護者に参加してもらうかが課題である。広報活動を活発に行い魅力ある学校、場所で会ってほしい。</li> <li>・PTA総会等の参加者が少ない。曜日、時間、他の行事等との兼ねあわせ等を考えた方がよい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元住民にもよく見えるボランティア活動や保護者が参加しやすい、参加したいと思うPTA活動を今後とも推進していきたい。</li> <li>・近隣高校のPTA総会の実施日や内容等の情報を集め、今後参加者が増えるよう工夫したい。</li> </ul>			